

## ロンドンとヨークの郊外住宅地の比較

伊藤 静香

本研究のきっかけは、本学の短期語学留学で、アイルランドの第2の都市、ヨークの郊外住宅地で3週間ホームステイをしたことである。ホームステイ先の郊外住宅地は、とても魅力的だった。

帰国後、アイルランドやヨークの郊外住宅地について調べたが、日本で行われた研究が見つからなかった。そのため、隣国であり、1922年（英愛条約に基づくアイルランド自由国の成立）まで同じ国家であったイギリスの郊外住宅地について調べたところ、イギリスの郊外住宅地には2つのタイプがあることが分かった。そして、次の2つのことから、ヨークの郊外住宅地も同じ2つのタイプを持つのではないかという仮説を立てた。まず、イギリスの2つのタイプの住宅地の写真とヨークの郊外住宅地で撮影した写真が似ていること、そして、イギリスの2つのタイプの住宅地それぞれに抱かれる印象と筆者が実際にヨークの郊外住宅地を歩いていたときの印象が似ていたことである。

このため、本研究の目的は、イギリスの首都、ロンドンにある2つのタイプの郊外住宅地と、ヨークの郊外住宅地を比較し、ロンドンの2つのタイプの住宅地がヨークにもあるのかを明らかにすることとした。ロンドンの2つのタイプの住宅地とは、19世紀後半の開発規制条例住宅地（By-law housing area）と、20世紀から都市計画家アンウィンによって始められた住宅地を指す。

本論では第二章で、ヨークの19世紀後半と20世紀以降というそれぞれの時代の都市状況や郊外住宅地がどのようなものであったのかを調べ、それがロンドンの19世紀後半と20世紀以降のそれと共通しているかどうかを考察した。第三章では、開発規制条例住宅地とアンウィンによる新しい住宅地それぞれの空間構成の特徴を調べ、それがヨークの住宅地においてみられるか、Google Earthを用いて検証した。開発規制条例住宅地については、道路の幅、後庭面積、D/F比（間口と奥行の比率）のほか、街区レベルでの集合秩序が見られるかを検証項目とし、アンウィンによる住宅地であるかについては、戸数がエーカー当たり12戸か、住宅地がグループ化され、その中央部に共同空間が設置されているか、道路が緩やかな曲線になっているか、前庭が設置されているか、視覚的な中心核や閉じた感じがあるかを検証項目としている。

その結果、検証の対象地として選んだヨークの3つの住宅地は、開発規制条例住宅地とアンウィンによる新しい住宅地、それぞれの空間構成を一部持つ住宅地であることを明らかにすることができた。